

30年代キャデラック・セビル風の レプリカ・クラシックカー。

8年前にイギリス人エンジニアがデザインした30年代のキャデラック・セビル風のレプリカが、実際に生産されそうだ。その詳細を紹介しよう。

このエレガントな30年代風のキャデラック・セビルは、英国のエンジニア、ロバート・メイドメントが8年前にデザインしたものだ。しかし、問題があった。限定生産のレトロ・スーパーカーを作っても、金持ちのエンスージヤストにしか売れないということだ。

90年代始め、高価なスーパーカーの市場が突然崩壊してしまっただけで、ジャガーなどは、最高速338km/hの限定生産モデル、X

J220の販売に苦慮していた。ハンドメイドの30年代レプリカ・キャデラックを生産し、17万5000ポンド（約3430万円）で金持ちのエンスージヤストに販売するという彼の計画は、壁にぶつかってしまったのだ。

世界的な不景気で商業的には可能性がなくな

78年式キャデラックをベースにしているとは思えないレプリカ・クラシックカー。



ってしまったが、メイドメントと彼のビジネス・パートナーは、利益を度外視してプロトタイプを作ることにした。だが、この高価なエンスージヤストのおもちゃは、英国のクラフトマンの技を見せる絶好の動く広告塔になった。いくつかのクラシックカー・ショーに展示され、いつも注目を浴びていた。

そして現在、プロジェクトがスタートしてから10年近くたち、経済状況も回復

してきて、このレトロ・セビルの限定生産の可能性が出てきた。まだ何も決まっただけではないが、プロトタイプの品質に対するレポートが、どれも優れていると報告されているのを見て、もう一度ビジネスを再開しようとしている。

自分の78年式セビルを ベースに製作を開始。

では、このエレガントなレプリカ・クラシックカーは、どんな車なのか。メイドメントは、彼自身の78年式キャデラック・セビルをベースにした。多くのアメ車エンスージヤストにとって、完全にいい状態のキャデラックをカットしてスペシャルカーを作るなんて、冒険行だ。しかし、キャデラック・セビルを使ったには理由があった。コンパクトなプラットフォームが彼の求めるサイズに近かったし、何よりも乗り心地とハンドリングが、他のビッグ・アメリカンとは違って、ヨーロッパ車のフィーリングを持っていたからだ。

メルセデス540Kや他の30年代のモデルの写真を用いて、プロジェクトチームは独自の30年代モデルを紙の上に描き出した。それを美的に修正する仕事は、それはどたいした作業ではなかった。それよりも、シートメタルのカッティングと取り付けが問題だった。最初の一枚のシートメタルのカッティングから車の完成まで2年間、チームは毎晩、毎週末、作業を続けた。

構造すべてにわたって、できるかぎりオリジナル・セビルのものを使うことがテーマだった。インテリアはほとんど78年式キャデラックと同じだが、ダッシュボードはサイズが縮められている。ラジエターは英国有数のラジエター・メーカー、セルクの特製だが、フィッティングはキャデラックの標準品が使われている。ヘッドライトは米国製のハコゲンバルブを使ったレプリカだが、テールライトは30年代レトロ・フォードのものを使っている。

サス形式に変更はないが エンジンはパワーアップ。

バンパーは、メイドメントのスペックで特注した大型トラック用のリーフスプリングを、クロムメッキしたもの。しかし、ホイールはオリジナルの78年式キャデラックのものを、そのまま付けている。計画ではワイヤースポークのホイールを使うはずだったが、オリジナルのリムとカバーがプガッティ・ロイヤルのホイールに似ているため、そちらが採用された。

フロントサスペンションは、スプリングをカットしコニのショックを加えているが、その他はオリジナルのセビルのまま。だがリアは、オーバーステアを除去するために、大幅に変更されている。ホイールスベーターを使ってトレッドを広げ、2本目のアンチローバーを加え、ステアリングのキャスター角を変え、リアタイヤの空室圧を増加させている。

オリジナル・キャデラック・セビルのエンジンは、オールズモビル5・73ℓのV8だった。70年の発表当時は250psの出力だったが、オールズモビル・カトラス・シユプリムに積まれたものでは、310psにまでアップされた。その後、排ガス対策装置の付加で、78年セビルでは180psにダウンしている。しかしこれでは、2トンの30年代レプリカ・スポーツ・ツアラリーには物足りない。

エンジンに変更を加えて225psまでアップさせたがそれでも不十分で、そのパフォーマンス不足が指摘されていた。現在では、6・6ℓのV8を積み、ミッションはハイドラマチック4000の3速AT。これで0→96・5km/h加速が8秒。最高速度は201・1km/h。ルックスに見合った性能を得た。

さて、レプリカ・キャデラック・セビルは生産されるのだろうか。結論は、もう少し経たないと分からない。

FROM * A B R O A D